

Interview



# 審査業務の高度化目指す“AI活用”

社会保険診療報酬支払基金 理事

山本 光昭

YAMAMOTO Mitsuaki

「新型コロナウイルス感染症は転換期を迎えている」「社会保険診療報酬支払基金の概要と審査に係る取組み」——。2022年から特別連載として、2つの大きなテーマについて執筆いただいた社会保険診療報酬支払基金理事の山本光昭氏。その紙面は各回ともに読者からの注目度が高く、好評のうちに幕を閉じた。今回は2度にわたる連載を終えた山本氏に、連載に込めた思いや、医療界におけるAIの活用などについて聞いた。

聞き手・早坂美都 東京歯科保険医協会 理事

**やまもと・みつあき** 1984年3月、神戸大学医学部医学科卒業後、厚生省に入省。横浜市衛生局での公衆衛生実務を経て、広島県福祉保健部健康対策課長、厚生省健康政策局指導課課長補佐、同省国立病院部運営企画課課長補佐、茨城県保健福祉部長、厚生労働省東京検疫所長、内閣府参事官(ライフサイエンス担当)、独立行政法人国立病院機構本部医療部長、独立行政法人福祉医療機構審議役、厚生労働省近畿厚生局長などを歴任し、15年7月、厚生労働省退職。兵庫県健康福祉部医監、同県健康福祉部長、東京都中央区保健所長を経て、21年4月より現職。

——本紙で2度にわたる連載を「寄稿いただき、ありがとうございました。まず連載終了へのひと言をお願いします。」

まず、新型コロナウイルス感染症(以下、「新型コロナ」)については、社会保険旬報のインタビューで語り切れなかった部分も含め、多くの方に、現在においては、「封じ込め」が不可能であること、ワクチンや診断・治療法が確立し、致死率が着実に大幅に減少してきていることから、「戦略」を見直し、「戦術」を改めるときにさしかかっていることを伝えたいという思いがありました。新型コロナは、保健所における疫学調査で感染経路としては唾液の飛沫感染が圧倒的なことがわかり、診療や研究開発の膨大な知見の蓄積によりワクチンや抗ウイルス薬が開発され、重症化へのリスク評価やステロイド薬の著効など、重症化予防や治療法も確立しました。感染経路や治療法もよくわからなくなってきたという、発生当初の状況からは大きく変わり、連載時点では、新型コロナはもはや「恐怖の感染症」ではなく、社会経済活動を正常化する転換期を迎えている時期でした。連載終了後、政府においても見直しの機運が高まり、この5月には感染症法上の扱いが変わることになったことを嬉しく思っております。

そして、「社会保険診療報酬支払基金(以下、「支払基金」)の概要と審査に係る取組み」については、支払基金の業務内容には、従来からの「審査支払に関する業務」に加え、「保健医療情報(データヘルス)の活用に関する業務」「保険者間の財政調整に関する業務」があること、また近年「審査支払に関する業務」については大きな変化を遂げていることをお伝えできました。

「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

審査するレセプトをAIも導入して選別していることについて、改めてポイントをお聞かせいただけますか。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

例えば、画像診断で医師・歯科医師の見落としを防ぐためのダブルチェックとして、実際にAIが活用されています。また、各種医療機器へのAI搭載も進みつつあるなか、現時点では、医師・歯科医師の診療行為の質を一層向上させるための支援機能が中心ではないかと思っております。

医療分野でも様々なAIが研究開発されつつありますが、すぐに医師・歯科医師と置き換わるのでは考えにくいと思いませんか。

医療分野でも様々なAIが研究開発されつつありますが、すぐに医師・歯科医師と置き換わるのでは考えにくいと思いませんか。

医療分野でも様々なAIが研究開発されつつありますが、すぐに医師・歯科医師と置き換わるのでは考えにくいと思いませんか。

支払基金で4月審査分から適用される「審査支払手数料の階層化」について教えてください。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

「審査業務にAIを活用する」と聞くと「AIが審査していくのか」という疑問を持つ方がいらつしやいます。連載でも述べましたが、AIは「審査」そのものをしていくわけではなく、過去の審査結果に基づき、歯科医師による審査を必要とするレセプトか否かの「振分」を行うのみです。歯科医師の専門性できっちり見ていただきたいものと、見ていただくという考え方は、このことを一般的に「デュアルレビュー(同僚評価)」と言いますが、わが国のこの方法は世界的にも高く評価されている審査システムで、我々も重視しております。AIの活用という点、AIが診療内容を審査していくのではイメージしづらいですが、そのような支払基金に審査委員会を設置している意味がなくなってしまうと、審査委員会が専門性の高い審査委員がレセプトをチェックすることが必須であり、AIに置き換えることは考えておりません。まずは、事務の効率化・高度化を図り、審査委員の審査のサポートを充実させるために、AIを活用していく方針です。

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待

「重要性を再認識した」歯科医療への期待